

教科名〔 国語 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
国語表現	2単位	第3学年1～6組の選択者	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	自分自身の内面を見つめ、思考を深め、精神的世界を豊かにする。また、その思考したことを整理し、文章によって自己を表現する力を付ける。論説文を読み取る力をつける。またその学習を通して、自分自身の主張を形成し、それを論理的に表現する力を付ける。語彙を増やし、文章表現のための基礎知識を学習する。手紙の書き方、電話での応答、敬語の正しい使い方等、社会生活に必要な表現のスキルを習得する。
使用教科書・副教材等	「15 三省堂 国語表現 008」 桐原書店「高校生必修語彙ノート」 担当教諭作成のプリント

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1.学習活動の特記事項 2.副教材の使用など	考查範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期	1「わたし」のことを語る [演習1] 200字程度で自己アピールを作成する。 担当教諭の自己アピール レクチャー 題材・材料の選択、主題・構成(tex.pp.1～8) [演習2] 自己分析=個性・趣味・進路・将来の夢・現在の生活 etc. 担当教諭の作成したプリントの間に答える形で自己を描き出していく。 レクチャー 原稿用紙の使い方(tex.見返し前・作成プリント) [演習3] 原稿用紙の使い方(作成プリント・) [演習4] 自己アピール再作成 400字程度発表 (自宅学習「語彙ノート」 pp.4～19)	4 ・ 5	いろいろなことを学習する前の白紙の状態以自己アピールを書いてみる。 具体的な例に接して考える。自己アピールをするために必要な準備、作業について学習する。 自己分析をすることによって自分を対象化し、自分についての具体的な像を描く。 ・ 自己の内にある思想・情緒を他者に正しく伝えるためのルール等を学び、練習する。 ～ の過程を経てしっかりとした目的意識を以って作成する。 大勢の前で自己を語ることで、自己についての認識をより深める。	1.「学習内容」は、単に生徒に実例を示すためだけでなく、担当教諭自身が自己を生徒に語ることによって生徒とのコミュニケーションを図る。 2.担当教諭作成の課題プリント	第1学期中間考查				
	2新聞に投書してみよう [演習1] 論説文のサマリーを作成する。 新聞の読者投書欄に掲載された意見、時事問題に対する専門家の意見などを教材とする。 また担当教諭によってサマリーの模範例を提示し、要点を指導する。 レクチャー 段落の適切な区分・文の構成・区切り符号・意見文の作成(tex.pp.9～17 pp.87～99・作成プリント) [演習2] 複数のテーマから関心のあるものをひとつ選んで意見文を作成する。400～500字程度 清書して印刷、製本 3就職・進学時の面接・作文の練習 レクチャー 敬語の使い方(tex.pp.35・作成プリント) [演習1] 敬語の使い方(作成プリント) [演習2]	6 ・ 7 ・ 8	身近な一般市民の意見の読みとりから始まり、少し高度な評論の要約まで練習して、論理的な文章に慣れる。 1 - に続いて、表現の技法を習得して、よりの確な表現を目指す。 自分の主張を明確にする。またそれを人に伝えるために、論点を整理する。正しい言葉遣いに努める。 社会生活に必要な敬語を正しく習得する。 想定される問に対する答を文章化することによって、実際の面接時にすらすらと答えられるように、また想定外の問に	1.まだ自分の主張を明確に持っていない生徒、客観性を獲得していない生徒が多くいると思うが、論説文を多く読む過程でそれらを形成させたい。	第1学期期末考查				

	<p>想定した面接官の問に対する答えを作成する。(作成プリント) よく出題される課題の作文の練習 (自宅学習「語彙ノート」pp.20～39)</p>		<p>対しても応用力を発揮できるように力を付けておく。 と同様の趣旨で作文の練習をする。</p>					
第2学期	<p>4 社会生活に必要な表現のスキル レクチャー 手紙の書き方(tex.28～30 作成プリント) 儀礼的な手紙を書く際に守るべき形式などを学ぶ。 [演習1] 儀礼的な手紙の例文の模写 卒業祝い・工場見学・採用内定通知等に対する礼状の作成 [演習2] 電話のかけ方(作成プリント) ホテルのフロント、通販の電話受付、会社の事務員などの役割を想定し、電話での対応をシミュレーションする。 (自宅学習「語彙ノート pp.40～59」)</p>	9 ・ 10	<p>友人や恋人に出す手紙は、形式にはさほどこだわる必要はなく、むしろ情緒を重んじる方が良いと思われるが、儀礼的な手紙の場合は、正しい形式にのっとらないと、相手に失礼である。ここでは、必要最小限の形式について学ぶ。 電話は相手の姿が見えない状態で、臨機応変に対応することが求められる。仕事の電話であれば、さらに正しい敬語の使い方も必須である。演習の中でそういった意識を養成したい。</p>	1. は、理論よりも実践によってより高い能力が養成される性格の学習であるので、できればロールプレイをやりたい。				第2学期中間考査
	<p>5 情報手帳で伝えよう、学校生活の知恵 レクチャー 情報の収集・整理と伝達について(tex.pp.80～86) [実習1](グループ作業) 3年間の高校生活を振り返って、後輩に伝えるべき情報を出し合う。 出された情報を分類整理する。 [実習2] クラス全体で情報を整理し、一冊の情報手帳に仕上げる。 [実習3] 各自分担して清書し、印刷する。 6 卒業スピーチ(私の答辞) レクチャー 卒業制作について 表現に関する基本知識(tex.pp.64) [演習1] 卒業スピーチの材料の整理=高校生活で得たもの・成長した面・学校で学ぶ意味・将来の夢・高校生とはetc. (作成プリント) [演習2] 卒業スピーチの作成 800字程度 2度原稿を提出して、最終的に印刷用の清書原稿を作る。 (自宅学習「語彙ノート」pp.60～79)</p>	10 ・ 11 ・ 12	<p>～ 終りに近づいてきた高校生活を整理し、まとめて対象化する。後輩に伝える情報という発想で作業を進めることによって、情報の軽重の判断をしやすくする。最後の学習となる各自の個人的な高校生活の総括(6卒業スピーチ)を準備するものとなるはず。 ～ 自己分析から始まった国語表現の学習の総仕上げとして位置づけている。3年間の高校生活を距離をおいて見つめなおし、自分の成長の過程を客観的に捉える。時々学習した表現の基本的スキルも駆使して、1人1人の答辞を作成する。</p>	1. グループで作業をすることで、ブレインストーミングを体験させる。				第2学期期末考査
第3学期	<p>[演習3] 卒業スピーチ集の作製 各自がクラス全員のスピーチを集めたものを、工夫を凝らして製本する。 [演習4] 自分の作製した答辞をクラス全員の前で発表する。 (自宅学習「語彙ノート」pp.80～107)</p>	1 ・ 2	<p>製本は国語表現の学習からは一定程度はずれるかもしれないが、自分達の1年間の学習の総仕上げである卒業スピーチを、本にして残しておくことに意義があると思うので、授業の一環に組み入れた。 表現の一形態であるスピーチで1年間の学習を締めくくりたい。</p>				学年末考査	
【1・2・3学期における課題・提出物等】 演習時の全ての課題								
【1・2・3学期における評価方法】 課題 《軽い課題》提出点 15点満点に換算=平常点 《重い課題》各 100点満点で評価 70点に換算 定期考査 年3回 各 100点満点 15点満点に換算 国語表現は、日々の授業の中で課題に取り組むことが最も重要な学習事項であるので、全体の成績のうち課題評価点を70%とした。 その他は、平常点15%、定期考査の得点15%とする。 1・2・3学期の成績の出し方は、内規通り。								